

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201120
法人名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
事業所名	今治市社協グループホームゆいの家
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435番地1
自己評価作成日	平成27年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 8 月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの明るい笑顔と声であふれる事業所でありたいと思っています。職員は、認知症を理解したうえで、一人ひとりの利用者さんを知る姿勢を大切にしています。高齢化が進んでいる地域の中で、認知症になっても住み慣れた町で安心して暮らし続けることが出来る地域づくりの事業所として社会とも関わっていきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島の小さな入り江から少し入った所に社会福祉協議会が地域の福祉拠点として、いわゆる「福祉村」を開拓した感のあるエリアに事業所はある。当初は社協の事務分室とデイサービスセンターだけであったが、地域の高齢化から生活施設や在宅支援施設等と建物が増え、福祉村へと成長した。現在はこれらが一体となり地域の安全安心を担っている。事業所に入ると何か親戚の家に遊びに来たような懐かしさを感じられる。それは建物の造りだけではなく、管理者や職員の「ゆっくりして行って」という人をもてなす気持ちの表れの様な気がする。その奥では利用者が「良く来てくれた」と招いてくれる。利用者を職員が支えているからこそ利用者は人に優しさが出せるのだと感じられる。事業所では、認知症の人に多い大きな、そして漠然とした不安感を和らげることに重点を置き、日々の介護を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意図を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 今治市社協グループホームゆいの家

(ユニット名) ゆいの家 I

記入者(管理者)

氏名 渡辺 優子

評価完了日 27年 8 月 3 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者さんが、笑顔で過ごせるよう温かみのある声掛けをします。また、地域との関わりを持ち、人として受け入れられ、尊重されていると認めていただければと思います。</p> <p>(外部評価) 理念は運営母体が社会福祉協議会（社協）のために、地域福祉を担うべき信念が盛り込まれているが、幅広い事業形態であるため各事業に共通する文言でまとめ上げられている。そのため事業所では、独自の月目標を定め利用者の生活を活性化することに努めている。「毎月端的な言葉で分かりやすくしています」と日常の業務の中で職員が意識しやすくしていることも評価できる。理念を実践することが利用者の生活の質を上げるといふ思いから、その取組みには余念がない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に参加するとともに、地域、学校関係の研修・実習の場所となっている。また、事業所全体で地域の清掃奉仕活動を行っている。一年に一回近隣住民の方にも参加して頂き、地域合同避難訓練を行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、社協が開拓した感のある「福祉村」の一画にあり、地域の福祉拠点になっている。したがって、地域とのつきあいは「事業所が」というよりは「社協が」という枠組みは外せない。また、事業所の職員も「福祉村」内で移動があり、法人全体の職員が一体となり地域と関わりを持っている。近所の人が取れた野菜や魚のお裾分けを持ち寄り習慣が根付いている地域に、「福祉村」はしっかりと溶け込んでいる。</p>	利用者も職員も島内出身者が多く、「〇〇さんところの娘さんかい」「□□さんは近所やった」等の会話が、散歩中に近隣者とできる関係性がある。その中で住民の小さな集まりがあちらこちらにできている事に管理者や職員は気が付いている。社協として地域とつながりを深めるのであれば、インフォーマルな集まりに出向き福祉の専門家として高齢になっても一人暮らしでも安心できる地域づくりに貢献されることを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域、学校関係の研修・実習の場所となっている。また、地域のボランティアの受け入れも行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 事業所の取組内容、状況、行事、課題などの報告を行い、参加されている方々からの意見を参考にし、サービスの向上に活かしている。また、参加出来にくい方には、事前のアンケート等で意見を頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議が「福祉村」で行われていることから、地域とは全体で関わっていることが分かる。議題は事業所の利用者を中心とした内容もあるが、社協が地域活性化のために何が出来るかといった他の事業所では見られない内容もある。真摯に地域福祉に取り組んでいることが分かる。議事録の行間に穏かな中にも楽しく会議を進行している情景が浮かび評価できる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して意見をいただくが、日頃から市担当者とは事業所の状況報告を行っており、内部研修の講師にも来ていただいています。</p> <p>(外部評価) 管理者も市とは連絡を取り合っているが、社協の支部長が深く関わりを持っている。事業所に隣接して小規模多機能やデイサービスを行っており、地域福祉活動では配食サービスや安否確認を行っている。市担当者は高齢福祉を支えるパートナーとして信頼を得ている。社協は地域包括支援センターも市から受諾しており、連携は堅固であると言える。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 研修に参加し拘束の勉強を深め、包括支援センターの職員の方を講師に迎え、事例を通して考える勉強会をおこない、自分たちのケアの振り返りを行っている。</p> <p>(外部評価) 昼食時に利用者から「あんた何処から来たんぞな」と笑顔で声を掛けられた。来客をもてなしたいという気遣いが感じられる。利用者が人に配慮をする状態には身体拘束という気配は感じられない。また、利用者が万が一近所を徘徊しても近隣者の見守りがあるため、事業所と地域との信頼関係が深いので家族も安心できる事業所である。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 包括支援センターの職員の方を講師に迎え、事例を通して考える勉強会を行うと共に、事業所のなかでも身体だけでなく、精神的な虐待につながる言葉についてもグループワークを行いかみんなの意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 制度については、内部研修や研修会に参加し理解を深めている。また、必要とされる方については、家族さんに説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行っている。また制度の改定時には説明し理解を求めている。遠方の家族には、書面と共に電話で直接説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎年、利用者さん、御家族さんにアンケートをお願いし意見や希望をお聞きしている。また、2か月に一度お便りと利用者さんの日頃の様子をお手紙にして報告している。また、随時家族さんと連絡を取ったり、来棟時にコミュニケーションをとり、御家族さんの意見を伺っている。	
			(外部評価) 面会に来た家族を職員は「いらっしゃい」と笑顔で迎えていた様子は、あたかも親戚が遊びに来たようであった。この対応に家族は、「行きやすい」「喋りやすい」と思うはずだと確信が持てる。「なかなか来れない家族には手紙を出している」と管理者は言っているように、電話もかけてはいるが、家族は「唐突な電話は、何事かと却って心配するので」と手紙の効用を良く理解し、手紙の対応により上手く家族と関わりを持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティング時に意見、提案、要望などを出し合い話合っている。また、事業所内での個別面談、アンケートを行っている。また、衛生委員会において、各事業所の問題点、課題などを出し合いお互いが共通認識している。 (外部評価) 管理者も職員も事業所の関係者であるとともに、地域福祉のスタッフであるという自負を持っている。これは運営法人である社協のプライドでもあり、管理者と職員が一丸となっている様子が事業所にはある。管理者が事業所をまとめ、支部長が各事業所全体をまとめており、地域福祉への貢献と歴史の厚みを感じられる業務形態である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所では、衛生委員会を設置しており職場の環境など職員の意見が反映されるよう話し合う機会を持っている。また、職員の向上心、スキルアップに内部研修をリフレッシュに日帰り旅行などを企画している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所独自で年間の研修計画を立てている他に、外部の研修の情報も提供し資質向上に向けて取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 定期的な外部の研修に参加し同業者との交流の機会を持っている。また、相互研修において、他事業所を訪問し意見交換を行ったり、定期的な行事訪問を行うことで質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前のサービス担当者や家族からの聞き取りを行い、情報収集を行っている。面接、事前見学を行い、本人の安心が持てるよう環境整備にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居に至るまでの期間、家族との話し合いで、家族の思いを聴き、施設側と家族とが両輪となって支援していくことの重要性を理解して頂ける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面接の段階から何が問題か、何を大事にしているかなど、アセスメントをしっかり行うことにより必要な支援を明確化していくことにつなげている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとり、何が出来、出来ないかということだけではなく、どう支援すれば出来るかということを話し合い、支援の方法、声掛けを考えながら「共に」の関係性を大事にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設で出来ることは行い、遠方の御家族さんの負担をなくしながら、2か月に一度のお便りや行事ごとのご案内を通じ、利用者さんの近況、状態をお知らせすることにより御家族さんとの距離感をなくしていきながら利用者さんを支えていくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事に参加するとともに、地域、学校関係の研修・実習の場所となっている。また、事業所全体で地域の清掃奉仕活動を行っている。一年に一回近隣住民の方にも参加して頂き、地域合同避難訓練を行っている。 (外部評価) 利用者のほとんどがデイサービスや社協の地域福祉活動でこの場所には馴染みがあり、その延長で事業所での生活がスタートするため、利用者は安心して暮らすことができている。事業所は、山の裾野からすぐ海が見える島特有の景色に囲まれ、利用者は落ち着いた開放感のある生活を送っており、他の事業所には見られない島ならではの特徴である。	事業所では利用者の生活歴に、もう一步踏み込んだ支援を始めている。この島で生まれ育っている人が多いため、実家が事業所とあまり離れておらず、時間を作って職員と利用者が実家を訪れている。前回の実施では「此处じゃない、もう少し上の家」と利用者に言われたが、後で家族にその話をすると「ああ、そこは嫁入り前の実家」と分かった。利用者の生活歴に新たな項目が書き入れられた出来事である。この取組みは、始まったばかりでケースは少ないが、利用者理解が深められる取組みでもあり今後期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格、身体・精神状態などを考え、日常生活の作業を職員が、タイミング、対人関係などを考慮し声掛けしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了された御家族さんからも、その後の相談を受けたり、帰省時には、施設に立ち寄ってくださったりと関係性を断ち切らないように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いの把握には、自分で気持ちを表現出来る方は日々の会話の中で、表現の難しい方は、表情・行動を観察しながら家族さんとも話し合い思いに寄り添えるよう努めている。  (外部評価) 事業所内で利用者と職員が喋っている場をよく見かけたが、リビングだけでなく廊下や洗面スペースの端、お勝手の前等様々であった。利用者が声を掛けると職員はその度膝を折り、視線を合わせ話しを聞いている。「ちょっと待って」と後回しにしない支援なのであろう。これは利用者にとって「言いたい事がいつでも言える」環境であり利用者それぞれの思いを知り、本人本位の生活を提供することにつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントをもとにするとともに、毎日の会話や、家族さんからの話でより深く把握できるように努めている。必要時、前のケアマネさんからも情報を求めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日の健康状態の観察と共に会話等で精神状態の安定が図れているか考えながら、もっている能力を発揮出来るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のミーティング時にケアカンファレンスの中で家族、担当者、主治医等、本人を取り巻くスタッフで、支援の方向性を話し合い、また、モニタリングを行い計画の見直しを行っている。  (外部評価) 利用者それぞれに担当職員を置き、介護計画のモニタリングを行っている。ただ、職員はシフトの関係で絶えず見ている訳ではないので、カンファレンスでは全員で話し合いを行っている。介護計画では本人が穏やかに暮らし続ける事にポイントを置き職員間で話し合いが行われており、職員が日常絶えず介護計画を意識して業務の遂行に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々のケア記録、支援経過と共に、変化があれば申し送り時に情報を共有し、その場にはない職員とは連絡帳を通して行い役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族さんの要望など、状況に応じた対応が出来るように努めている。スタッフだけでは、マンパワーが間に合わないときには、ボランティアさんをお願いしている。また、隣接のグループホームや小規模との交流、地域との交流も積極的に行い、柔軟な支援ができるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事に参加している。また、本人さんの慣れ親しんだ地域、思い出の場所などへの外出。また、家族さんの協力で馴染みの美容院などへ出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族さんの希望に応じたかかりつけ医の受診ができるようにしている。また、症状、病状によって、適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者それぞれに在宅時からのかかりつけ医がおり、事業所でもそれを継続できるように支援を行っている。看護師でもある管理者が各医療機関との連絡窓口になり、医療と福祉の結びつきの役割を果たしている。事業所の協力医は、隣接する他の事業所にも往診をしているため、日常的な連携が取れている。協力医は利用者全員の顔と状態を把握しているため、医療面の安心感は高く家族も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 高齢で認知症の方であるため、問題行動も身体の不調と考えあわせながら介護職は、状態の観察を行い、変化を感じたときには、看護師、かかりつけ医の訪問看護師とも連携をとりながら適切で速やかに対応できるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者の入院時には必要な情報、サマリーを提供している。入院した際には、家族、病院関係者とも連絡をとり、状況を把握しながら退院の時期や今後は相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時説明を行っているが、家族さん、本人さんの意向、その時々状態を主治医とも相談し、家族、職員、主治医とが協力、連携を取りながら支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 日常的に医療行為が必要になると、専門機関に移行し事業所でできることと医療機関に任せるべきことの線引きがはっきりしている。これについては利用開始時に本人や家族等に説明をしており、福祉施設の役割の理解を求めている。できないのボーダーを示すことには専門性の高さが感じられる。また、「最後まで医療行為が要らなかったの」と看取りも経験しており、一つの福祉施設のあるべき姿がここに見える。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は定期的に救命救急法を受講しており、応急手当、急変時の対応はマニュアル化している。また、夜勤時の急変時の対応は、他施設との連絡、連携等の訓練を行っている。また、入居者の状態に応じて考えられるリスクをミーティング時に話し合い対応を確認している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害避難訓練、夜間を想定とした地域との避難消化訓練を行っておりマニュアルが作られている。また、事業所独自でミーティング等で場面を換えての訓練を行っている。  (外部評価) 火災等の避難訓練は年間行事に組み込まれ、消防署の指導のもと定期的に行われている。周りに民家がないため、他所からの延焼等は考えにくく、事業所が火元であるとの想定で訓練が行われている。法人全体で行われることから、避難についてはマニュアル化されており、職員が入れ替わっても利用者の安心感が高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を損なうことの無いよう一人ひとりに合わせた声掛けに日々気を付けている。共同生活でもあるので、プライバシーに関する事はホールではなく、居室で話したりと注意している。  (外部評価) 利用者への声かけは島独自のイントネーションがあり、暖かく優しく感じられる。それが慣れ親しんだ空気を事業所内に醸し出し、利用者も安心しているのか語り口が穏やかである。職員は利用者立ち話をする時に、膝を折って目線の高さを合わせて対応しており、ちょっとしたことであるが、その配慮に相手を思う気持ちや込められている。利用者の穏やかさはそれを理解している表れと思われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活において、言葉だけではなく表情・行動などを注意深く観察し、スタッフでの情報交換を行うことでその方の思いをキャッチ出来るよう心掛けている。自空間をゆったりと感じてもらえるよう注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのかたのペースまた、その日の体調に合わせて過ごせるよう心掛けている。外出の好きな方は、外出できるよう、みんなで楽しく過ごせる時間も大切にしている。出来る限り、その人に会った支援ができるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれが好きな方は、自分で衣服を選んで頂き、困難な方も好みを聴きながら服を決めてもらったり、選んでもらっている。また、一日のうち、何回か着替えられる方もいらっしゃる。また、家族が行きつけの美容院に連れて行ってもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の野菜、果物等新鮮な食材を使い盛り付けの工夫や、食べたい品を聴き献立を立てている。また、食材の下ごしらえ等も行ってもらっている。 (外部評価) 昼食のおかずの一品に地域特産のいぎす豆腐があった。「あ～これなあ、作る人によって味が変わるなあ」と話しが弾む。手作りだからこそ醸し出せる食事風景であり、栄養のバランスが保てるような配慮もしている。高齢の利用者が多くなり、準備や後片付けが難しくなっているが、「ありがとう」と言いながら職員の働きを見守っている。また、利用者全員が食べ終わるまで待っているのは、一緒に食事をしていることの表れであり連帯感を感じる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好みや食事量を把握し、健康状態、嚥下能力にも気を付けている。また、生活習慣病も考えバランスのよい献立に留意している。水分摂取は、一回量が少ないため小まめに摂取できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声掛けをしており、自分で洗浄してもらっているが、十分に出来ていない方は、職員が後磨きを行っている。就寝時には、ポリドントを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を付けることで、排泄のリズムに合わせて声掛け、誘導を行っている。また、トイレであろう行動を観察し、スタッフで情報を共有しトイレでの排泄がスムーズにできる様支援している。	
			(外部評価) 利用者のほとんどは昼間だけでなく夜間もトイレを利用している。これは職員に気兼ねすることなくトイレ誘導を依頼できるという安堵感があるからだろう。「夜は部屋から出て来る足音で誰なのかが分かる」と管理者は言うが、絶えず利用者を意識しているからできるのだと思う。尿取りパットも適宜使って、無理のない排泄支援が行われており、この気遣いが利用者の生活に安心感を与えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 腸内細菌を考え、ヨーグルト、オリゴ糖を使用している。繊維質の多い食材の使用。水分の補給。散歩等による運動を行っている。また、排便習慣をつけるため、朝食後のトイレの誘導にも注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望（時間・湯音等）やその時のタイミングをみて入浴できるようにしている。体調により入浴できなくてもシャワー、清拭、足浴など柔軟な対応している。誘導が難しい方はスムーズに入浴してもらえるよう職員が連携を取りながら行っている。	
			(外部評価) 広い浴室で二人介助でも余裕で対応できるが、浴槽への移乗介助には少し困難があるように思う。手すりの設置方法に工夫があり、利用者が安全に入れる工夫が見える。入浴を嫌がる利用者には人を変える等あの手この手を使っていますと管理者は言っており、利用者気持ちよさを味わってほしいとの思いが伝わる。また、体調を確認できる貴重な機会であるとの専門家らしい見方を持ち入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりが自分の時間帯、ペースで休まれるよう、居室の温度調節、布団の使用なども気を付けている。夜間眠れない方にたいしては、日中の過ごし方を見直し、職員の関わり方を考えながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が管理している。服薬は、個別の袋に一回分を入れ手渡しにて服薬してもらっている。全体の処方箋はまとめてあり皆がいつでも見れるようにしている。内容が変われば、連絡ノートに記載し、状態の観察に注意して支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の役割（炊事・火事・洗濯等）だけでなく、個人の昔ながらの趣味、興味のあるものを取り入れたレク、大好きな食べ物作り、ドライブなど身近なことで気分転換を取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりその日の体調にあった支援に努めている。日々の関わりの中で、その人の思いを知り、その実現をどのように支援できるか職員だけでなく、家族も交えて話し合っている。遠方の家族のかたは、地域での親戚、民生委員さん等にも協力して頂いている。	
			(外部評価) 事業所周辺は車と歩道が別れ安全面の配慮があり、歩道で各事業所が結ばれているため、遊歩道として気軽に散歩が楽しめる。職員は外気浴が利用者の生活を活性化することを知っているため、天候的に問題がなければ積極的に散歩に連れ出している。また、他の事業所の利用者とお喋りすることが日課になっている人もいよう、職員による外出支援の賜物である。庭先では潮の香りや山からの吹き下ろし等季節が感じられ、外出支援には恵まれた事業所である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個別の預り金は事務所で管理しているが、家族の了解のもと本人が所持している方もおられる。職員と共に買い物に出かけるときには、自分で所持していない方は、預り金や施設の買い物を通して楽しみを感じてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの荷物などが届いたときにはお礼の電話が出来るようにしている。字を書く機会がないためみなさんためらうことが多いが、文字だけでなく創作なども利用して絵手紙として支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルには、花を活け、壁面には季節感ある飾り付けをしている。周囲が気になり、落ち着かれない方の視界に入らないような配置に気を付けている。窓際から見える景色から季節を感じたり、草花がみえゆってり過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 敷地が広大であるため、事業所も平屋でゆったりと建っている。共用空間も天井が高く東側と南側に掃出しの大きな窓が二カ所ずつあり、自然と庭に繋がっており、リビングで過ごすだけで表の様子が分かる設えで居心地が良い。畳の小上がりスペースは、昼寝スペースになったり、腰かけの場になったりして、利用者が時間によって思い思いに使っている。また、事務室が共用空間と玄関の間にあり見守りがしやすくなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるように椅子やソファの配置を工夫している。また、座る席には考慮し利用者さん同志が会話し楽しく過ごせるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、今まで使ってきた馴染の物を持ってきていただき、壁には家族さんとの写真などを貼り、本人さんが落ち着ける空間づくりに気を付けている。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれが思い入れがある物を置き、各部屋は個性的になっており、ベッドの位置は利用者の身体特性に合わせ部屋毎に違っているのは事業所の配慮と思われる。利用者は起きている間はリビングに出ていることが多く、事業所全体がその人の居室であるかの如くである。また、「私の部屋ええやろう」と案内してくれた利用者の顔が自信に満ち溢れていたのが印象的である。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 場所が分りやすいように表示している。安全に留意して物の配置をしている。認知度の高いかたは、難しいので職員が常に五感を働かせて支援している。</p>	

(別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201120
法人名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
事業所名	今治市社協グループホームゆいの家
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435番地1
自己評価作成日	平成27年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 8 月 28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの明るい笑顔と声であふれる事業所でありたいと思っています。職員は、認知症を理解したうえで、一人ひとりの利用者さんを知る姿勢を大切にしています。高齢化が進んでいる地域の中で、認知症になっても住み慣れた町で安心して暮らし続けることが出来る地域づくりの事業所として社会とも関わっていきたくと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島の小さな入り江から少し入った所に社会福祉協議会が地域の福祉拠点として、いわゆる「福祉村」を開拓した感のあるエリアに事業所はある。当初は社協の事務分室とデイサービスセンターだけであったが、地域の高齢化から生活施設や在宅支援施設等と建物が増え、福祉村へと成長した。現在はこれらが一体となり地域の安全安心を担っている。事業所に入ると何か親戚の家に遊びに来たような懐かしさを感じられる。それは建物の造りだけではなく、管理者や職員の「ゆっくりして行って」という人をもてなす気持ちの表れの様な気がする。その奥では利用者が「良く来てくれた」と招いてくれる。利用者を職員が支えているからこそ利用者は人に優しさを出せるのだと感じられる。事業所では、認知症の人に多い大きな、そして漠然とした不安感を和らげることに重点を置き、日々の介護を心がけている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 今治市社協グループホームゆいの家

(ユニット名) ゆいの家Ⅱ

記入者(管理者)

氏名 渡辺 優子

評価完了日 27年 8 月 3 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p><b>(自己評価)</b> 豊かな自然と恵まれた環境の中で地域に根ずき人々の優しさに触れ合いながらと、地域の中で生活している意義を踏まえた理念の中で利用者さんが地域の中で安心して暮らせるように理念を共有して実践に繋げていけるように努めています。</p> <p><b>(外部評価)</b> 理念は運営母体が社会福祉協議会（社協）のために、地域福祉を担うべき信念が盛り込まれているが、幅広い事業形態であるため各事業に共通する文言でまとめ上げられている。そのため事業所では、独自の月目標を定め利用者の生活を活性化することに努めている。「毎月端的な言葉で分かりやすくしています」と日常の業務の中で職員が意識しやすくしていることも評価できる。理念を実践することが利用者の生活の質を上げるという思いから、その取組みには余念がない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p><b>(自己評価)</b> 地域や学校関係の研修や実習の場として提供し交流やボランティアの協力を得ている。支部事業として夏祭りや地域を交えた大掛かりな消防避難訓練の協力が得られている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 事業所は、社協が開拓した感のある「福祉村」の一面にあり、地域の福祉拠点になっている。したがって、地域とのつきあいは「事業所が」というよりは「社協が」と言う枠組みは外せない。また、事業所の職員も「福祉村」内で移動があり、法人全体の職員が一体となり地域と関わりを持っている。近所の人が取れた野菜や魚のお裾分けを持ち寄る習慣が根付いている地域に、「福祉村」はしっかりと溶け込んでいる。</p>	利用者も職員も島内出身者が多く、「〇〇さんところの娘さんかい」「□□さんとは近所やった」等の会話が、散歩中に近隣者とできる関係性がある。その中で住民の小さな集まりがあちらこちらにできている事に管理者や職員は気が付いている。社協として地域とつながりを深めるのであれば、インフォーマルな集まりに出向き福祉の専門家として高齢になっても一人暮らしでも安心できる地域づくりに貢献されることを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 年間をどうしての実習生の受け入れや学校関係者の研修、体験実習、地域ボランティアを積極的に受け入れ認知症の理解を促進している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の取り組みやホームの課題ひやりハット、行事報告、また評価結果等を報告し、貴重な助言を頂きサービスの向上へと活かしている。年間をどうして随時必要なテーマを話し合いサービスに反映している。	
			(外部評価) 運営推進会議が「福祉村」で行われていることから、地域とは全体で関わっていることが分かる。議題は事業所の利用者を中心とした内容もあるが、社協が地域活性化のために何が出来るかといった他の事業所では見られない内容もある。真摯に地域福祉に取り組んでいることが分かる。議事録の行間に穏やかな中にも楽しく会議を進行している情景が浮かび評価できる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のメンバーとしては運営上の実態報告や現状の課題等相談したり定期的なお便りを届け理解を深め協力関係が得られるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者も市とは連絡を取り合っているが、社協の支部長が深く関わりを持っている。事業所に隣接して小規模多機能やデイサービスを行っており、地域福祉活動では配食サービスや安否確認を行っている。市担当者は高齢福祉を支えるパートナーとして信頼を得ている。社協は地域包括支援センターも市から受諾しており、連携は堅固であると言える。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部、内部研修において勉強し拘束しないケアについて取り組んでいる。利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしをご支援するための工夫に取り組んでいる。	
			(外部評価) 昼食時に利用者から「あんた何処から来たんぞな」と笑顔で声を掛けられた。来客をもてなしたいという気遣いが感じられる。利用者が人に配慮をする状態には身体拘束という気配は感じられない。また、利用者が万が一近所を徘徊しても近隣者の見守りがあるため、事業所と地域との信頼関係が深いので家族も安心できる事業所である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内での虐待防止の意識も高く利用者と一緒に暮らして行く中で心地よく日々を過ごして頂く為にも、身体的、精神的にも虐待の無いよう言葉かけや声の大きさにも気を付け、相手の身になっての介護を心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に付いて理解できており必要と思われる場合は本部とも連携し活用できる態勢は整っている。利用者家族さんに必要に応じて活用できる事の説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には十分な説明はしている。また改定等の際にも説明し理解を得てサインをもらっている。家族様が来所時には話し合いの時間を持ち、疑問や不安の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎年、利用者さんと家族さんにはアンケート調査により反映できるようにしている。利用者さんやご家族様とのコミュニケーションの機会を随時持ち何でも話せ、ご意見や要望を教えて頂いている。また家族会においては家族様方が一緒に話し合える機会もあり意見箱を設置し要望等反映できるようにしている。  (外部評価) 面会に来た家族を職員は「いらっしやい」と笑顔で迎えていた様子は、あたかも親戚が遊びに来たようであった。この対応に家族は、「行きやすい」「喋りやすい」と思うはずだと確信が持てる。「なかなか来れない家族には手紙を出している」と管理者は言うように、電話もかけてはいるが、家族は「唐突な電話は、何かと却って心配するので」と手紙の効用を良く理解し、手紙の対応により上手く家族と関わりを持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティング時の意見、提案事項や要望等は全員で出し合い反映できるようにしている。また、事業所内での個別面談やアンケート等でも意見を提案できる場を設け説明、反映させながら信頼関係を保っている。</p> <p>(外部評価) 管理者も職員も事業所の関係者であるとともに、地域福祉のスタッフであるという自負を持っている。これは運営法人である社協のプライドでもあり、管理者と職員が一丸となっている様子が事業所にはある。管理者が事業所をまとめ、支部長が各事業所全体をまとめており、地域福祉への貢献と歴史の厚みを感じられる業務形態である。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 事業者の取り組みとして衛生委員会で意見を持ち寄り年2回の日帰り旅行、職員全体のスキルアップ研修等各自の向上心へ向けた研修会を持ち職場の環境面の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修計画を設けそれぞれに応じた研修の機会を持っている。また回覧等で研修の情報を提供し自主的に活用しやすい様に努めている。事業所内においても毎月内部研修の機会があり参加しやすい様にしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修の場での意見交換や毎年行っている相互研修においては他の施設の情報を得意意識しながらサービスの向上に取り組んでいる。また隣接した事業所の意見交換は定期的に行われそれらを含めて質の向上に努めている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前のサービス担当者からの情報や来所して頂き面談や聞き取りしながら雰囲気を感じて頂き馴染みやすくできるにつとめ、入居当初は家族さんの協力を得ながら本人さんの安心感の確保に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時に家族さんの思いを伺いながら事業所としての支援内容を話し合っている。また随時状況報告等で話し合う機会を持ち安心して頂けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族さんと話し合い、状況観察、情報等から必要なサービスに繋げている。他のサービス利用の場合、情報を迅速に提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その時々々の作業をお願いし、一人ひとりに役割を持って自然な生活場面が作られるように工夫している。感謝の言葉をお伝えしゆったりとした気持ちで安心して過ごせるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設としての支援内容は入居時に説明している。健康面については少しの変化時にも状態を連絡し医療が必要時には家族の協力をお願いしている。また衣替えは家族の関わりをお勧めし本人家族、施設が適切な距離を保ちながら心の通う支援を続けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域からの利用者が多い為、知人や友人の訪問があり職員は見守っている。地域の行事に出かけると知人が探しながら会いに来てくれたり、家族の協力を得馴染みの美容室へ出かけている。地域のボランティアの協力もあり、新たな馴染みの関係になっている。  (外部評価) 利用者のほとんどがデイサービスや社協の地域福祉活動でこの場所には馴染みがあり、その延長で事業所での生活がスタートするため、利用者は安心して暮らすことができている。事業所は、山の裾野からすぐ海が見える島特有の景色に囲まれ、利用者は落ち着いた開放感のある生活を送っており、他の事業所には見られない島ならではの特色である。	事業所では利用者の生活歴に、もう一步踏み込んだ支援を始めている。この島で生まれ育っている人が多いため、実家が事業所とあまり離れておらず、時間を作って職員と利用者が実家を訪れている。前回の実施では「此処じゃない、もう少し上の家」と利用者に言われたが、後で家族にその話をすると「ああ、そこは嫁入り前の実家」と分かった。利用者の生活歴に新たな項目が書き入れられた出来事である。この取組みは、始まったばかりでケースは少ないが、利用者理解が深められる取組みでもあり今後期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の準備やかたづけ等個々の身体、性格等考慮しながら出来る事を分担してお願いし利用者さん同士で関わりあえるように支援に努めている。常時見守りと気配りして不安や支障をきたさないよう適切な支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後の家族さんとの関係を大切にし個人情報に留意し必要時は情報提供している。時々家族様と出会う時が有りその後の様子を教えて頂いたり帰島時職員に会いに来て下さったりと交流は続いている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 気持や思いを表現出来る方は会話の中で思いや意向をくみ取る。また言葉として出ているばかりでなく表情や態度でも思いや意向の把握に努めている。表現できない方の場合は家族様に伺ったり、寄り添いながらその時の気持を把握できるように支援している。 (外部評価) 事業所内で利用者と職員が喋っている場をよく見かけたが、リビングだけでなく廊下や洗面スペースの端、お勝手の前等様々であった。利用者が声を掛けると職員はその度膝を折り、視線を合わせ話しを聞いている。「ちょっと待っといて」と後回しにしない支援なのであろう。これは利用者にとって「言いたい事がいつでも言える」環境であり利用者それぞれの思いを知り、本人本位の生活を提供することにつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の基本情報や日常の会話や本人を含めた家族様との会話の中でこれまでの暮らしの様子を把握し共有している。プライバシーに配慮しつつ常に本人の思いを考え会話の内容には考慮しながら支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の健康観察、会話等で心身状態を把握し、一人ひとりの生活のリズムを考慮しつつ出来る事をお願いしながら皆で共同生活を楽しく送れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人や家族と話し合う時間を持ち要望や意見を伺う。スタッフ全員によるミーティングでカンファレンスを行いモニタリングで検討し現状に即した介護計画に繋げ、支援経過記録等、変化あれば随時家族に連絡し共有している。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれに担当職員を置き、介護計画のモニタリングを行っている。ただ、職員はシフトの関係で絶えず見ている訳ではないので、カンファレンスでは全員で話し合いを行っている。介護計画では本人が穏やかに暮らし続ける事にポイントを置き職員間で話し合いが行われており、職員が日常絶えず介護計画を意識して業務の遂行に取り組んでいる。</p>	現在のモニタリングは、「どうであったか」の評価を各職員から聞き取っており、ポイントを押さえた介護計画で的は得てると思われるが、評価が主観的になりがちなので客観性のある評価を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の実践の中から介護記録や一日チェック表、連絡帳を基に情報を共有し実践、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族さんの要望に応じて外出、外泊が出来るようにその時のニーズに対応している。ボランティアさんや隣接しているグループホームや小規模多機能ゆいの村や地域との交流も積極的に行い生活の場を広げる等柔軟な支援に努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 四季折々の地域の行事には体調に合わせて出かけ楽しまれている。馴染みの方々との出会いも多く家族の協力により行き付けの美容院へも行かれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者が希望するかかりつけ医に、家族の協力を得て継続して受診出来るように支援している。また協力医の協力も得られ適切な医療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者それぞれに在宅時からのかかりつけ医がおり、事業所でもそれを継続できるように支援を行っている。看護師でもある管理者が各医療機関との連絡窓口になり、医療と福祉の結びつきの役割を果たしている。事業所の協力医は、隣接する他の事業所にも往診をしているため、日常的な連携が取れている。協力医は利用者全員の顔と状態を把握しているため、医療面の安心感は高く家族も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者に変化があれば看護師に連絡して状態観察してもらい必要時医師に連絡し個々の利用者が適切な受診ができるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には必要な資料を提供をし連絡を取りながら状況を把握し家族や本人の意向に沿って医師の指示の基、対応可能な段階で早期退院出来るように回復状況を教えて頂いたり相談に応じている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時、重要事項で説明し理解了解を頂いている。本人や家族の意向を伺い状況に応じて医師や関係者とも早い段階で相談しながらホームでできる範囲で支援出来るように努めている。	
			(外部評価) 日常的に医療行為が必要になると、専門機関に移行し事業所でできることと医療機関に任せるべきことの線引きがはっきりしている。これについては利用開始時に本人や家族等に説明をしており、福祉施設の役割の理解を求めている。できないのボーダーを示すことには専門性の高さが感じられる。また、「最後まで医療行為が要らなかったの」と看取りも経験しており、一つの福祉施設のあるべき姿がここに見える。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は定期的に救急法講習は受けている。応急手当てや初期対応のマニュアル等もあり急変時やひやりハットの事例を基に皆で振り返り実践できるように話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 隣接する事業所との合同で災害時の避難訓練や場面を変えての消防署や地域の消防団、地域住民の参加協力による夜間を想定した初期消火、通報、避難訓練も行っている。其の都度職員全員で話し合い振り返り、身に付いている。備蓄品も準備している。 (外部評価) 火災等の避難訓練は年間行事に組み込まれ、消防署の指導のもと定期的に行われている。周りに民家がないため、他所からの延焼等は考えにくく、事業所が火元であるとの想定で訓練が行われている。法人全体で行われることから、避難についてはマニュアル化されており、職員が入れ替わっても利用者の安心感が高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の関わりの中で一人、ひとりに合わせた声かけが出来るように、声のトーンにも気を付け尊重した言葉かけにも気をつけている。プライバシー保護についてはミーティングで意識統一出来るように話し合っている。 (外部評価) 利用者への声かけは島独自のイントネーションがあり、暖かく優しく感じられる。それが慣れ親しんだ空気を事業所内に醸し出し、利用者も安心しているのか語り口が穏やかである。職員は利用者と立ち話をする時に、膝を折って視線の高さを合わせて対応しており、ちょっとしたことであるが、その配慮に相手を感じる気持ちが込められている。利用者の穏やかさはそれを理解している表れと思われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活上であらゆる場面に対して本人の思いや希望を表す事が出来る様な言葉かけをし自己決定出来るような場面作りをしながら誘導や働きかけをしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人の体調に配慮しながらペースを大切に自由に出発して頂いている。散歩や外が好きな方は自由に出られ隣接している棟職員の協力で安全に配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみは本人の意思で好みの服を選んできている。行き付けの理美容院へは家族と一緒にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立や好きな食べ物等の会話をし出来る方には下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器拭き等その方に合った作業をお願いし一緒にしている。また同じ食材でも好みに合った味付けをして美味しく頂けるよう工夫をしている。	
			(外部評価) 昼食のおかずの一品に地域特産のいぎす豆腐があった。「あ～これなあ、作る人によって味が変わるなあ」と話しが弾む。手作りだからこそ醸し出せる食事風景であり、栄養のバランスが保てるような配慮もしている。高齢の利用者が多くなり、準備や後片付けが難しくなっているが、「ありがとう」と言いながら職員の働きを見守っている。また、利用者全員が食べ終わるまで待っているのは、一緒に食事をしていることの表れであり連帯感を感じる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病のある方、体重増加気味の方、便秘気味な方等食物繊維や量に配慮しながら個々に出来る範囲で対応している。昼夜を問わず、常にお茶を用意して何時でも飲めるように対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声かけし、自分で出来る方、介助の必要な方。拒否のある方、個々の対応で全員が出来るように支援し、食事を終えた方から流れで洗面所へ行くように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄を記録しその人に応じた声かけや誘導を行っている。自立の方へは声かけ見守りしている。全員トイレでの排泄ができています。また季節によっての下着の見直しをしています。 <p>(外部評価)</p> 利用者のほとんどは昼間だけでなく夜間もトイレを利用している。これは職員に気兼ねすることなくトイレ誘導を依頼できるという安堵感があるからだろう。「夜は部屋から出て来る足音で誰なのかが分かる」と管理者は言うが、絶えず利用者を意識しているからできるのだと思う。尿取りパットも適宜使って、無理のない排泄支援が行われており、この気遣いが利用者の生活に安心感を与えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 一人ひとりの排泄の状態はほぼ把握できている。水分を十分に取り繊維質の多い食材を提供したり体操や散歩等で予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 入浴時間帯はだいたい午後ですが希望や体調にあわせて毎日入浴出来るようにしている。入浴のさっぱり感、気持ちよさを大切に清潔保持の支援をしている。職員にとっても利用者さんと一対一で話ができる良い機会です。また、身体の傷、かゆみ、アザ等の確認の場でもある。 <p>(外部評価)</p> 広い浴室で二人介助でも余裕で対応できるが、浴槽への移乗介助には少し困難があるように思う。手すりの設置方法に工夫があり、利用者が安全に入れる工夫が見える。入浴を嫌がる利用者には人を変える等あの手この手を使っていますと管理者は言っており、利用者に気持ちよさを味わってほしいとの思いが伝わる。また、体調を確認できる貴重な機会であるとの専門家らしい見方を持ち入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 日中はフロアで自由な時間を持ちながら何時でも休息できている。居室の換気や温度調節管理はこまめに行い気持ちよく休めるように支援している。夜間の状態も記録やミーティング時に確認できその日の体調に合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別の薬袋を準備、どのような薬を服用しているか確認でき処方内容に変化があれば連絡ノートに記録し共通理解ができるようにしている。また、体調に変化があれば何時でも家族、医師、看護師に連絡をして早めの対応が出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備やかたづけ、洗濯干し、たたみと自分達からすすんでの申し出が有りお願いする事により満足感が毎日の生活でみられる。幼い頃の生活の様子や農作業に付いて話題も膨らみ笑顔がみられる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節や気候に合わせてほぼ毎日適当な時間帯に散歩、保健センターへ出かけ気分転換しながら過ごせるように支援している。地域の行事には積極的に外出計画をたて安全に留意しながら家族やボランティアの協力を得て地域の方々との関わりを楽しんで頂いている。	
			(外部評価) 事業所周辺は車と歩道が別れ安全面の配慮があり、歩道で各事業所が結ばれているため、遊歩道として気軽に散歩が楽しめる。職員は外気浴が利用者の生活を活性化することを知っているため、天候的に問題がなければ積極的に散歩に連れ出している。また、他の事業所の利用者とお喋りすることが日課になっている人もいようで、職員による外出支援の賜物である。庭先では潮の香りや山からの吹き下ろし等季節が感じられ、外出支援には恵まれた事業所である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金を持っている利用者は無く、家族から小額預かり必要に応じて支払いをしている。お大師参りやお宮参り時にはその中から準備し本人が納めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望があれば何時でも電話ができるように支援している。家族さんから荷物が届いた時など直接電話ができ会話を楽しまれている。また家族さんからの電話をととても喜ばれているので何時でもかけてもらえるよう声かけしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関フロア等共同空間に季節の花を生けたり写真を貼ったりと目で楽しめるようにしている。夏は戸口にのれんをかけて締め切りのないように温度管理にも気をつけている。椅子を置き外の景色を観たり咲いている花により季節を感じて頂けるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 敷地が広大であるため、事業所も平屋でゆったりと建っている。共用空間も天井が高く東側と南側に掃出しの大きな窓が二カ所ずつあり、自然と庭に繋がっており、リビングで過ごすだけで表の様子が分かる設えで居心地が良い。畳の小上がりスペースは、昼寝スペースになったり、腰かけの場になったりして、利用者が時間によって思い思いに使っている。また、事務室が共用空間と玄関の間にあり見守りがしやすくなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 和室で休まれたり、長椅子、ソファ等自由に座れる場所が有りテレビを観たり話をしたり外を眺めたりとゆっくりとした時間が取れるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 誕生日カードや家族の写真を貼ったり本人の使い慣れたものを家族と話し合いながら持ちこみ安心して過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれが思い入れがある物を置き、各部屋は個性的になっており、ベッドの位置は利用者の身体特性に合わせ部屋毎に違っているのは事業所の配慮と思われる。利用者は起きている間はリビングに出ていることが多く、事業所全体がその人の居室であるかの如くである。また、「私の部屋ええやろう」と案内してくれた利用者の顔が自信に満ち溢れていたのが印象的である。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 棟内のトイレや居室に分りやすい様に、目線に合わせた名札や張り紙をし自立に向けた環境作りをしている。居室もベッドの位置や家具の置き場所を考えながら工夫している。</p>	